

17. きらびやかな品々に彩られた古墳時代後期

古墳時代でも終わり頃に近づくと、金色に輝く冠や履(くつ)、刀や馬具など、きらびやかな品々が古墳から見つかるようになります。

これより前の時代に、武器やヨロイ・カブトが多く見つかることと大きく違うわね。金色に輝く品々は、亡くなった人が偉大だったことを示すためのもので、限られた人しか持てなかったのよ。

そして、この古墳時代の終わり頃には横穴式(よこあなしき)石室をもつ古墳が広まったの。横穴式石室というのは棺を納める部屋のことよ。詳しい説明は、次の18番を聞いてみてね。

博物館のまわりにある一須賀(いちすか)古墳群もこの時代につくられました。一須賀古墳群は、大きさが10~20メートルの小さな古墳ばかりだけど、その数は260基にもなります。この時代は、これまで古墳を作れなかった人々もだんだん力をつけてきて、小さな古墳を築き始めたの。博物館を出たら、一須賀古墳群もぜひ見学してね。